

## 調査報告書

- 1 とき：2012年7月18日
- 2 行先：愛知県立春日井養護学校
- 3 参加者：山口清明、岡田ゆき子、さはしあこ、政務調査補助員（浜田）
- 4 主な内容
  - 守山養護学校の課題を調査するため、産業課単独校の春日井養護学校を視察した。
  - 7月6日に守山養護学校を視察したが、春日井養護学校は広くゆったりとして、設備も充実しており、環境・施設に大きな違いを感じた。
  - 特に自習室の広さや設備の違いは、社会自立・職業自立に影響を与えていると思う。各教室の授業を見学したが、守山養護学校の生徒は十分な学習がされていないのではないかと心配になってしまった。例えば、春日井は陶芸の窯もあり、自分たちで焼きすべての工程を体験できる。セメントを使う授業では、教室の中にセメント土を置く広いスペースがあり、配合・コネも自分で行う。
  - 作ったブロックなどは実際に春日井市で使用するので生徒は真剣に良いものをつくる努力をしている。また、地元の団体などから陶器などの工芸品の依頼を原価で受けて作成もしている。
  - これらの実習は生徒にとっても良い効果を与えているが、守山では作成する場所も作品を保管する場所もない。
  - 春日井はゆったりしているだけでなく授業の内容も違う。
  - 春日井養護学校の見学会ではかなりの応募があるが、面接後の最終応募では、ほぼ定員の数になっているので、守山と比べ落とされてしまう生徒は少ない。
  - ◇ やはり守山の産業課は単独校にすべきだ。定員を増やせば落とされる生徒も減る。十分な学習も可能になり、生徒の相談室も設置できメンタルケアもできる。